

地域医療連携室だより

～ 第 16 号 ～

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

朝夕の寒さが厳しくも、晴天の日には日差しの暖かさを感じるこの頃ですが、1 月下旬より全国的にインフルエンザが警報レベルに達しており、貴院におかれましては多忙な日常診療が行われている事と存じます。

昨年は、カーリング女子代表選手の「そだねー」が流行語大賞に選ばれたように、平昌オリンピックでの日本人選手の大活躍に元気をもらった一方、北海道胆振東部地震や大阪府北部地震、西日本豪雨、北陸豪雪、さらに記録的な猛暑や大型台風といった「自然災害」の脅威が各地を襲ったことを受けて、2018 年の漢字には「災」が選出されたような大変な一年でもありました。本年は、今上陛下の御退位にて元号が一新されますので、希望に満ち溢れた一年であればと念じております。

さて、当院は、地域に密着した急性期病院としての医療機能の確保、がん医療の充実およびチーム医療の推進を目標としており、昨年より実施した全日 24 時間内科系二次救急と HCU は概ね順調に稼働しています。今年は、更に以下のことに取り組んでおりますので、ご紹介させていただきます。

【今年の取り組み①】患者無料送迎バスの運行拡充

平成 29 年 7 月から開始した阪急三国駅方面と当院を循環する患者無料送迎バスの運行に加えて、本年 2 月 1 日より阪急十三駅方面、JR 塚本駅方面および JR 加島駅方面への 3 ルートのバス運行を開始いたしました。当院を基点としてほぼ淀川区全域を網羅する 4 ルートの患者無料送迎バス運行となりますが、発着時間の変更もありますので、患者さんには運行表を確認していただき、これまで以上にご利用いただければと考えております。

【今年の取り組み②】がん患者サロン『サロン・ド・Juso』の設置

本年 1 月より 1 階フロアに、がん患者さんやご家族など同じ立場の方同士が心の悩みや体験を語り合い、交流する場としてがん患者サロン『サロン・ド・Juso』を設置いたしました。また、がん相談支援センターと緩和ケアチームメンバーが中心となって、がん患者サロンの活動内容を紹介する広報誌『サロン・ド・J 通信』を隔月で発行しています。どちらも、地域の先生方の診療の一助になれば幸いです。

本誌では、泌尿器科、消化器内科の情報提供と認知症サポートチームの活動報告および緩和ケア認定看護師の紹介を掲載させていただきます。

この連携だよりも今回が平成最後になりますが、地域医療連携室では、改元後益々、地域の先生方との密接な医療連携とともに、患者受け入れ・退院支援、がん相談支援および広報活動の強化に邁進していきたいと考えておりますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長 倉井 修 副院長



泌尿器科のご紹介

泌尿器科部長 医師 安達高久

平素は多数の患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

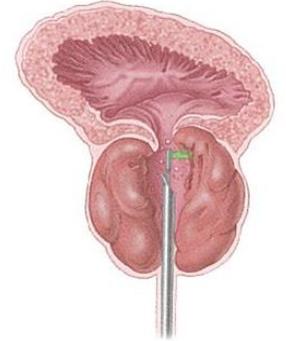
当院泌尿器科は安達、河野、田中の常勤医3名にて診療を行っております。全員が日本泌尿器科学会の指導医、専門医であり、また安達、田中が日本泌尿器科学会の腹腔鏡技術認定医、河野が日本腎臓学会および日本性機能学会の専門医であり、幅広い泌尿器科疾患に対し専門性をもって対応しております。

診療内容は泌尿器科診療全般ですが、今年度は、2月より前立腺肥大症に対し、新たにグリーンライトレーザーによる前立腺内視鏡手術を開始致します。近年は心血管系合併症のため抗血小板薬や抗凝固薬を服用している患者さんが少なくありません。グリーンライトレーザーによる前立腺手術は出血が極めて少ないため、原則これらの薬剤を中止せずに手術を遂行することが可能です。また結果的には、術後の尿道バルン留置期間も短く、入院期間も短くなり、患者さんには大きな利益になるものと思われま

す。加えて当院では、昨年より排尿ケアチームを立ち上げ、活動を行っております。主にカテーテル抜去後の患者さんが、自分で自立した排尿ができるように多職種によるチームでサポートしています。もし入院にてバルン抜去を試みてみる患者様がおられましたら、またご考慮いただければと思います。

おかげさまでご紹介患者様も少しずつ増加してきております。どの様な方でも、どの様な要望でも、僅かの疑問や問題点でも、遠慮なくご紹介いただければと存じます。

GreenLightレーザー療法による治療



消化器内科(大腸ファイバー)のご紹介

当院でコールドスナア・ポリペクトミーの施行が可能となりました

平素先生方にはたくさんの患者様をご紹介頂きありがとうございます。

さて、当院では、これまで外来にて大腸内視鏡を行った際に発見された大腸ポリープに対して、後日に1泊2日、または2泊3日の入院のうえ内視鏡的治療を行ってまいりました。

しかし、2回の大腸内視鏡検査の負担が患者様にとって大きいこともあり、大腸内視鏡検査の際にポリープがあればその場で切除して欲しいというご意見を多くいただきました。

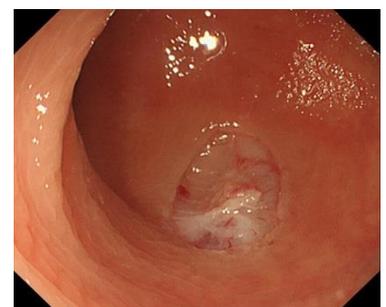
このような患者様の声にお応えすべく、2019年2月から当院でコールドスナア・ポリペクトミー(Cold snare polypectomy)を導入し、大腸内視鏡検査施行時に発見されたポリープに対して、その場で切除することが可能となりました。

ただし、全ての病変に対して施行できるわけではなく、早期癌の可能性のある病変や、出血のリスクの高い病変は適応外となります。

切除前



切除後



またコールドスネア・ポリペクトミー(Cold snare polypectomy)には下記のような特徴があります。

長所

- ✓ 高周波通電による burn effect がない(出血、穿孔の合併症が極めて少ない)
- ✓ 心臓ペースメーカー装着、金属ステントが体内にある患者様にも使用可能
- ✓ 一度の検査で治療が同時に行える

短所

- ✓ 個数が多い時は、一度に外来で切除できない
- ✓ 偶発症が起こった時には緊急で入院治療が必要な場合がある

今後ともサービス向上に取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

認知症サポートチーム:十三オレンジチーム(JOT)の紹介

認知症看護認定看護師 江口啓子

十三オレンジチーム(JOT)は、「認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さが見られ、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者さんに対し、多職種で対応することで、認知症の悪化を予防し、安心できる環境で身体疾患の治療を円滑に受けられること」を目的として活動しています。

主な活動内容

- ① チームラウンド・カンファレンス:毎週 1 回、多職種によるカンファレンスを行い、病棟ラウンドにて入院患者さんの療養環境調整や介入方法についてアドバイスをを行っています。
- ② 退院支援:退院困難が予測される方に早期に介入し、MSW と連携による在宅支援調整や生活に関するアドバイス、退院カンファレンスの参加等を行っています。
- ③ 研修会の開催:せん妄についてや認知症対応力向上研修を全職員向けに実施し、携わるスタッフが認知症を正しく理解し、適切ななかかわりができるように努めています。
- ④ 認知症看護認定看護師による、認知機能スクリーニング評価やせん妄に関することや対応方法についての家族への説明を行っています。

入院は患者さんにとって非日常であり、ご家族から離れるなどで不安を生じることが予測されます。入院される際にはカレンダーや時計などの見当識を補足するものや、ご家族の写真や使い慣れたもの、安心されるものなどを持参していただくと幸いです。

今後も地域の皆様のお力をお借りしながらより良い、医療・看護の提供や連携が行えるよう取り組んでいきたいと考えています、何卒よろしくお願いいたします。



認定看護師の活動紹介

緩和ケア認定看護師 佐藤恵美

はじめまして！緩和ケア認定看護師の佐藤恵美です。

私の役割は、生命を脅かす病気と向き合う患者さんとご家族が、治療と療養を両立させながら、よりよく生きられるように、全人的な苦痛を緩和し、支えることです。

生きていく中には、治療や再発への不安があったり、仕事・人間関係などの悩みを抱えることも多々あります。そのような悩みを抱えておられる患者さまやご家族に寄り添い、心と体をどのように整えればよりよく過ごせるかということ、対話を通して一緒に考えていきます。当院では、がん患者サロンを定期的に開催しており、サロンに参加される患者さまのサポートも行っています。

緩和ケアは、がんと診断を受けた時から、治療中・終末期などの時期を問わず提供されます。当院には「緩和ケアチーム」があり、多職種で関わることで苦痛を和らげるチームアプローチを実践しています。チームで関わらせていただいた方が住みなれた自宅で過ごされることになった時、引き続き専門的緩和ケアを必要とする場合は、退院後訪問として自宅への訪問も行い、自宅での緩和ケアが継続できるようなお手伝いもさせていただいています。これからの地域包括ケアの充実に向け、円環的なサポートを目指し、緩和ケアチームの一員として頑張っていきたいと考えていますので、対象の患者さまがおられましたら、ご連絡いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



～第30回十三臨床談話会のご案内～

(淀川区医師会・十三市民病院臨床談話会)

2019年3月7日(木) 18:15～20:15 9階すかいルーム

教育講演 (18:30～)

「当院における鼠径部ヘルニアの手術について」

演者: 大阪市立十三市民病院

外科 江口 真平先生

特別講演 (19:00～)

「がん疼痛治療最前線～新しいオピオイドをどう使うか～」

演者: 大阪市立大学大学院

医学研究科 麻酔科学

矢部 充英先生

※ 大阪府医師会生涯教育講座を単位申請しております

～市民公開講座のご案内～

○ 3月16日(土) 10時30分～12時00分 9階すかいルーム

テーマ 少しでも楽な日常生活を！

「手のシビレについて」

～見分け方を教えます！～

演者: 整形外科部長 田中 亨先生

「ひざ関節のつらい痛みと最新治療法」

～くすりと関節注射だけで大丈夫ですか～

演者: リハビリテーション科
兼 整形外科副部長 坂和 明先生

講演会終了後、テーマの疾患について
ご相談をお受けいたします

市民向けの講演となっておりますので、希望の方がおられましたら
ご紹介のほどよろしくお願い致します

編集

大阪市立十三市民病院 〒532-0034

地域医療連携室

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話: 06-6150-8000

直通電話: 06-6150-8067